

株式会社カインズ 御中

野洲市教育委員会
教育長 北脇 泰久

中畑・古里遺跡 弥生時代中期末の大型掘立柱建物遺構の現地保存に関する要望書

平素は本市文化財保護の取り組みにご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、令和 7 年 12 月から開始している中畑・古里遺跡の発掘調査につきましても、一連のご協力に対し、重ねて厚くお礼申し上げます。

今回の（公財）滋賀県文化財保護協会の担当調査区にて検出しました、弥生時代中期末の祭殿と評価される大型掘立柱建物跡は、三上山信仰の歴史を遡る上で最古の資料として評価でき、その歴史の古さをストレートに物語るものであります。現代やこれからの世代を歩んでいく本市市民にとりましても、欠かすことのできないモニュメントとして位置付けられます。

去る令和 6 年度末に策定いたしました『野洲市文化財保存活用地域計画』では、本市の歴史文化の特徴を三つの柱にまとめております。その一つ目には「三上山信仰と遺跡群が伝える山との共生」を掲げております。この三上山を中心とする文化財群は、御上神社や宮寺の旧東光寺、山麓の古墳群などの遺跡をはじめ、御上神社の国宝本殿をはじめとする建造物群や同神社が所有する歴史資料・美術工芸品、周辺の村落によって運営される「三上のずいき祭り」など、実に多岐に及ぶものとなっております。また、「三上山のムカデ退治」の伝説は、市民の世代を超えて人口に膾炙されるものであり、三上山は本市の歴史文化や歴史文化そのものを超越する存在であるといっても過言ではありません。

今回発見となった中畑・古里遺跡の大型掘立柱建物遺構に関しては、遺構としての学術上の重要性や歴史的価値については、新聞・テレビによる報道や、学識経験者の指摘の通りであります。三上山麓を聖域空間として景観を設定・演出するあり方については、日本人の信仰の歴史を考える上で、今後欠かすことのできない史跡として注目されることは必定と考えられます。また、三上山に親しみをもつ本市市民にとりましても、その信仰の歴史の古さを具体的・直接的に物語る資料として大変貴重であります。

以上のことから、野洲市教育委員会では以下の点を要望いたします。

1. 大型掘立柱建物遺構の現地保存

同遺構の建物範囲もしくは個々の柱穴を保護し、計画建物の基礎施工によって破壊されずに地下保存されること。遺構が破壊を受けずに地下保存されるのであれば、直上に計画建物を施工することについて問題とするものではありません。

2. 開発計画の竣工・オープン後を見据えた遺構の調査成果の活用策

今回検出した遺構を広く市民に知ってもらうため、具体的には解説サインや遺構の地表面あるいは床面表示、もしくは小型ジオラマの展示など、いくつかの方策が考えられます。

今回の開発計画に対する貴社のお立場や重要性は、本市教育委員会としまでも重々認識するところであります。請い願わくば諸々の条件が解決となり、遺構が現地保存されるよう以上のとおりに要望するものであります。

誠に恐れ入りますが、当件に係る結果や対策・措置につきまして、野洲市教育委員会宛ご文書にてご回答をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。